

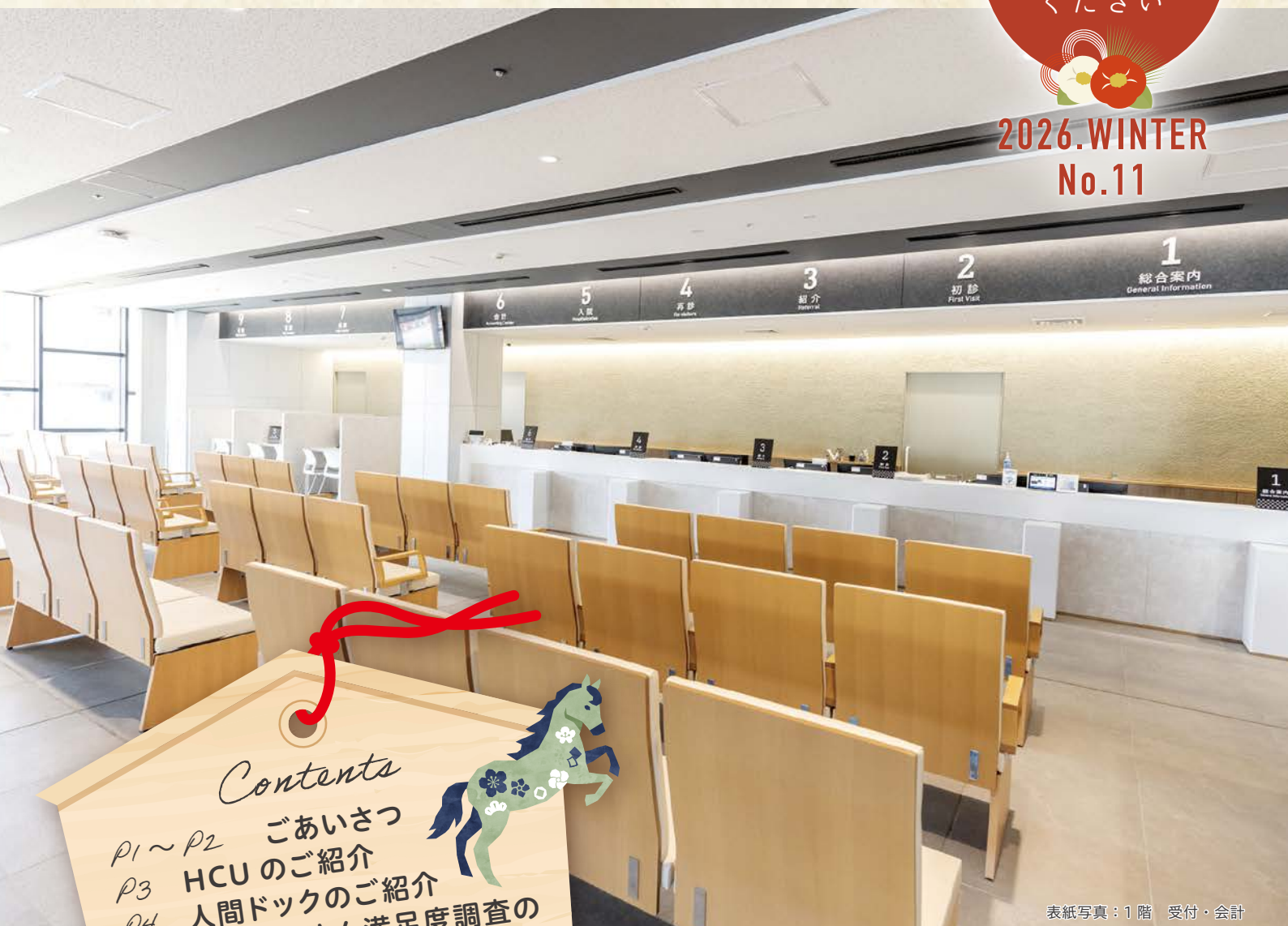
20日愛26

D A N

ご自由にお持ち帰りください



2026.WINTER
No.11



Contents

- P1 ~ P2 ごあいさつ
- P3 HCU のご紹介
- P4 人間ドックのご紹介
- P5 外来患者さん満足度調査の結果をお知らせします



表紙写真：1階 受付・会計



中核医療センター・地域医療支援病院

霧島医療センター

住民の方たちへ

最良の医療を目指して

始良地区医師会会長 佐藤 昭人



あけましておめでとうござい
ます。皆様、それぞれの思いで新年
を迎えられたことと思います。私
もこれからの当病院のあるべき姿
を考えながら、悩ましい思いで年
を越すこととなりました。

新しい病院が完成し診療科も増
えたのになぜ？と思われる人も多
いかもしれません。マスコミで病
院は赤字、特に当院のような公
的病院は全国のほとんどの病院が
赤字で経営困難と報道されていま
す。

ではなぜ赤字？病院の収益は国
が定めた診療報酬ですので赤字だ
からと価格を吊り上げることは出
来ません。医師不足が深刻な状況
のなか当院は県央の中核病院とし
て常勤医と鹿児島大学からの派遣

医師など多くの医師が勤務して
おり救急医療や小児医療、ロボッ
ト手術などの高度医療を担っており
ます。

しかしこのような医療を提供
すればするほど赤字が膨らむの
です。それは物価高騰の影響で
高価な医療材料費がかかり、また
二十四時間体制の救急医療や時間
外の手術などには多く医療スタッ
フの人員費が必要です。

では黒字にするにはどうすれば
よいのでしょうか。時間外の救急や
高度の手術をやめて医療を縮小し
医師の数も減らすことが手っ取り
早い方法です。しかし一度、失っ
た人材や医療体制は元に戻るこ
とは出来ません。このような病院
を住民の方々は望まれるでしょ
うか。

住民の方たちへの最良の医療を
提供しこの地域で多くの命を救う
ために医療センターと霧島市と医
師会としっかり協議しこの難局を
乗り越えられるよう頑張りたいと
思います。本年も皆様のご理解と
ご協力をなにとぞよろしくお願い
いたします。

あけまして おめでとうござい

謹んで新年のお慶びを

申し上げます

看護部長 増田 いづみ



日頃より地域住民の皆
さま、地域の医療機関皆
様におかれましては、霧
島市立医師会医療セン
ターへのご理解、ご協力
を賜り厚く感謝申し上げ
ます。

昨年二〇二五年は、二
月に新病院が完成し、職
員一丸となり地域の皆様
のニーズに応えようと初
心にかえり取り組みまし
た。新病院の全室個室と
いうメリットを活用し、
面会ルールを守っていた
だくことで面会制限緩和
を実現することができ、
患者・患者家族から良い
評価を頂いております。

また、HCUが開設され
たことで、超急性期と急
性期の棲み分けが可能と
なり、看護ケアの充実に
もつながっていると実感
できる年でした。

看護職は医療と生活の
両方の視点を持つ専門職
として、地域で暮らすあ
らゆる世代の人々の健康
を支えていくことを求め
られています。地域の皆
様の医療ニーズに応え、
命、暮らし、尊厳を守り
支える看護を提供できよ
うにしていきたいと思います。今
後ともご指導、ご鞭撻を
賜りますようよろしくお願い
致します。

新年のごあいさつ

病院長 河野 嘉文



新年明けましておめでとうござ
います。二〇二六年（令和八年）
が始まり、昨年二月一日にオープ
ンしました新病院もやっと一年が
経過します。以前より多くの皆さ
んにご利用いただけて病院長とし
て大変感謝申し上げます。この間
には駐車場の少なさや、新病院の
レイアウト、あるいは待ち時間の
長さ等について多くのご意見を
いただきました。病院の運営方法に
ついては院内で検討させていただ
きますが、駐車場を含む施設・設
備については霧島市の財産であり、
病院の判断で何かできるものでは
ありませんので、皆様方からいた
だいたご意見は霧島市に伝えるよ
うにしております。ご了解のほど
よろしくお願い申し上げます。

ます。特に公立病院は救急や小児
医療などのいわゆる「不採算医療」
の提供が求められていますので、
従来から国や自治体からの補助金
を含めて運営されてきましたが、
補助金があれば赤字が回避できる
レベルではなくなっています。安
倍内閣から推進されてきたインフ
レ誘導政策の結果として、すべて
の物価が高騰しておりますが、病
院関係としては給食材料の調達コ
ストを含む委託費の増加、人材不
足による物品（医療材料、医薬品）
の流通コスト上昇などで、病院運
営の基本的な費用がうなぎのぼり
に増加しています。通常の経済行
為であれば、販売価格（病院では
診療費）の値上げで対応するのだ
ですが、保険診療制度の下での医療
提供はすべて公定価格となること
からそれは不可能です。ひとくち
に医療と言っても、急性期や慢性
期、あるいは診療所や病院で事情
は異なるのですが、国民医療費は
二〇二四年には四十八兆円になり、
二十年前の三十兆円にくらべて驚
きの伸びを示しています。医師等
の医療提供者の技術料、とりわけ
手術関係の技術料はほとんど変化
しておりませんので、伸びの部分
は診療材料費と薬剤費が大部分を
占めると言っても過言ではありません。
これらの費用は患者数が増え
れば当然増えますし、患者数が
少なくなれば減少します。病院で
支払っていただく費用（一割〜三

割の患者負担分）と保険基金から
支払われる医療費（七割〜九割の
保険部分）だけで全てを賄えない
状況が生じています。

政府はプライマリーバランス
（基礎的財政収支）を黒字にする
という方針の延期を繰り返し、今
回も場当たり的な補助金で病院
救済をしようとするかもしれませ
んが、補助金と言っても税金であ
りそれらは本来道路整備や公営
住宅整備など別のところで使うべ
きお金かもしれません。霧島市の
財政事情も非常に厳しいものが
あると伺っておりますので、今の
ような高コストの医療提供を続け
ていくかどうかを相談するべき時
機になっています。中長期的には
日本全体の人口減少に伴い各地の
病院機能は縮小されます。コス
トと直接関係する当院の診療科
数が適正か、あるいは費用対効果
が悪い救急医療体制を縮小する
か等の検討など、具体的に経費
の節減を考えなければなりません。
最終的に税金の使い道を考えるの
は市民の皆さんの役割かと思いま
す。霧島市立医師会医療センター
は今後どのような医療の提供をす
べきか、市民の皆さんの意見をも
とに、行政・病院・始良地区医師
会で新たな方針を示すべきだと考
えておりますので、未来の霧島市
のために二〇二六年（令和八年）
がそのスタートの年になることを
祈念いたします。

病院は街の財産

病院長補佐 柳 正和



謹んで新年のお慶びを
申し上げます。令和八年の
新春を迎え、皆さまにご接
触できますことを大変うれ
しく存じます。

昨年二月多くの方々のご
支援に支えられ新病院の開
設に至りました。深く感謝
申し上げます。新たに整備
された病院は、単に医療を
提供する場にとどまらず、
社会資源の一つとして地域
全体に開かれた存在である
べきと考えております。街
づくりに寄与し、市民の皆
さまが安心して暮らせる社
会を築くための拠点となる
ことを目指します。

医療は「治すこと」を第
一とする時代から、「寄り
添うこと」に重きを置く時
代へと変化してまいりまし
た。その中で、当センター

は急性期医療・救急医療を
担う基幹病院としての責務
を果たしながら、患者さん
やご家族に寄り添う姿勢
を大切にしてまいります。

さらに、病院という枠を
超え、医療資源を社会に還
元することで、地域の福祉
や生活の質の向上に貢献し
たいと考えております。医
療を通じて街を支え、街と
共に歩み成長していくこと
こそ、私たちの使命であり
ます。

霧島の地で誰もが自分ら
しく生きられる社会を支え
るためにも、地域の皆さま、
行政、医師会、介護・福祉
の関係者と手を携えなが
ら、昨今の厳しい経済事情
も踏まえ、今後も持続可能
な医療をともに考える年にな
りそうです。

本年も職員一同力を合わ
せて皆さまに安心と信頼の
医療を届け、地域の皆さま
に必要とされる存在として
共に歩んでまいります。
本年もよろしくお願いいた
します。



人間ドック のご紹介

新病院の六階に位置する人間ドックフロアは、隼人の街並みと桜島を眺められる、明るく開放的な眺望が魅力です。フロアは男女別に分けて、プライバシーに配慮しており落ち着いた空間になっています。

当院の人間ドック・健診事業では、健康の確認、異常の早期発見、病気の予防を主な目的とし、医師二名、保健師四名、看護師二名、事務職員四名のチーム体制で皆様の健康をサポートするべく努めています。

人間ドック・健診は受けて、結果を聞いて終わりではありません。健康でいられるための始まりです。受診された方がその後の人生をより健康な身体で、生き生きと生活していけるために、結果をお伝えするだけでなく、病気になるにくい身体でい



健診担当医

徳留 美智子

られるような日常の生活改善などのアドバイスを行います。受診後には、勧められた精密検査や必要な治療を受けているかまでをサポートしています。受診された方の中には、受診時に心電図異常等がみつかって早期に診療、入院加療につながる方もいらっしゃいました。

さらに、二〇二五年六月からPET-CT検査を導入しており早期の悪性腫瘍の早期発見にも力を入れています。

地域の皆様の生活がより良いものとなるよう、スタッフ一同心がけています。



HCU のご紹介

今回は霧島医療センターHCUの紹介をさせていただきます。HCUとはHigh Care Unit（ハイケアユニット）の頭文字をとった病床ユニットの略称で、一般病床より重症度の高い患者さんの入院管理ができるいわゆる「集中治療室」の一つです。当院では、二〇二五年二月の新病院移転に伴い、十床の専用病床を備えたHCUを整備しました。

入室する対象は、救急外来からの重症症例、全身麻酔の手術後に厳重な管理が必要な症例、病棟入院中の状態悪化症例などです。こうした患者さんの全身を管理するため、HCUには多様な医療機器やモニターが整備され、一般病棟より多くの看護師が配置されて濃密な看護を行っています。入院管理は基本的に各診

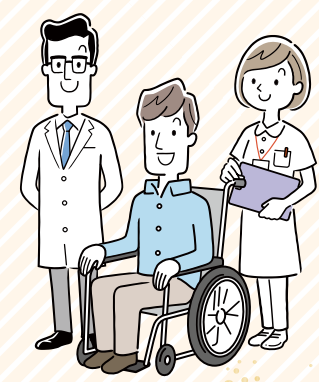


HCU室長／救急科医長
政所 祐太郎

療科の主治医が行いますが、血圧が不安定な場合や人工呼吸器での管理が必要な場合など、重症度が高いケースには集中治療医が加わる診療体制も整備しています。

かつては「重症患者はしっかり眠らせ長期安静にする」というのが主流でした。しかし現在では、過剰な安静、長期の集中治療室滞在、環境変化によるせん妄などを背景に、メンタルヘルス障害（不安・PTSD・うつ症状）、認知／身体機能障害が生活に影響を及ぼす「PICS（Post Intensive Care Syndrome：集中治療後症候群）」が懸念されています。救命はできても寝たきり生活を余儀なくされたり、社会復帰が困難になるなど、「元の生活に戻れない」ケースをできる限り減らすことが、近年の集中治療の大きな目標になっています。当院HCUにおいても、医師による全身管理に加え、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床工学技士、心理士など各専門職が協力し、早期リハビリテーション、早期栄養療法、睡眠の質改善、せん妄予防、集中治療による合併症予防、患者さんや家族のメンタルケアなど、チームで包括的な全身管理を目指しています。

これまで集中治療体制がなかった鹿兒島市内へ搬送せざるを得なかった重症患者さんを、地域内で治



療できるようになることで、病気がなった患者さんやご家族の不安や負担の軽減、地域住民の皆様にとっても安心できる生活基盤となると考えています。まだ立ち上げまもなく十分なお仕事もありますが、日々改善しより良い医療提供に努めてまいります。

外来患者さん 満足度調査

の結果をお知らせします

【調査期間】 2025 年 8 月 25 日～ 8 月 29 日

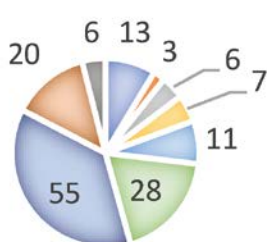
【調査対象】 149 名

【調査場所】 1 階外来フロアー

【調査方法】 無記名の投函によるアンケート調査

対象患者さん情報

年 齢 別



今回の受診は？



■ 初診 ■ 再診 ■ 不明

アンケート結果

アンケート結果		非常に満足	満足	やや不満	不満	不明
施設面	通院のしやすさ	37	93	11	2	6
	駐車場の広さや入りやすさ	31	51	44	18	5
	建物の外観	67	74	4	2	2
	総合待合室の設備や雰囲気	64	80	4	0	1
	各科の待合室の設備や雰囲気	63	77	9	0	0
	トイレや洗面所の設備	74	60	4	1	10
	売店、食堂、自動販売機	38	72	11	0	28
	案内板や表示のわかりやすさ	49	82	14	2	2
	清潔感	75	70	2	0	2
	施設面全般について	56	79	9	1	4
接遇面	総合案内や会計窓口の応対	68	69	1	1	10
	各科診療窓口の応対	68	68	3	0	10
	看護師の言葉遣いや態度	78	60	1	0	10
	医師の言葉遣いや態度	85	50	0	1	13
	検査・放射線技師の言葉遣いや態度	55	39	0	0	55
	リハビリスタッフの言葉遣いや態度	39	28	0	0	82
	プライバシーへの配慮	62	54	4	0	29
	接遇面全般について	59	66	0	0	24
診療サービス面	採血の待ち時間	31	51	10	2	55
	検査の待ち時間	33	63	17	1	35
	診察の待ち時間	27	73	26	3	20
	診察後の支払いまでの待ち時間	29	78	15	3	24
	看護師の説明の解りやすさ	65	65	1	0	18
	医師の病状説明の解りやすさ	76	55	1	1	16
	医師への質問や相談のしやすさ	77	55	1	1	15
	診療科でのサービス全般について	58	70	3	1	17

いただいたご意見

待ち時間について

- スムーズに流れた
- 待ち時間が少なく、とても良かった
- 待ち時間が少ないので満足
- 支払いまでが少し長い
- 受付の待ち時間、予約とずれる診察までの待ち時間、診察後の受付から申し送りを待つ時間（40分以上）、会計を出てからの支払いまでの待ち時間（30分以上）全て時間がかかり過ぎ、待つ間に疲労で体調に影響がある

施設・設備について

- 案内板をもう少しわかりやすく
- エアコンで寒い場所があった
- 食堂等が欲しい
- 高齢者になると椅子に座る時は良いが立ち上がりが難しいので、数個高さのある椅子があれば立ち上がりがスムーズになる
- 待合室の冷房が寒かった（Aブロック）
- 場所がわかりづらい
- 駐車場がもっと広いと助かる
- 入り口がわかりにくい（特に初めの場合）
- 午前中はいつも駐車場探しが大変

アンケート調査のご協力、心より感謝いたします。
アンケートの結果やご意見を共有し、今後より一層、医療の質の改善活動に取り組んでまいります。
今後ともご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。



〒899-5112 鹿児島県霧島市隼人町松永3320番地

霧島医療センター

TEL 0995-42-1171 (代表) FAX 0995-42-2158

受付時間 8:30～11:00 診療時間 8:30～17:30 休 診 日 土・日・祝・年末年始

↓ 職員募集中 ↓

Instagram



@KIRISHIMA_MEDICAL_CENTER

看護部Instagram



@KIRISHIMAMC_JOBOFFER

ホームページ

